

平成29年度行政事業レビューシート (内閣府)

事業名	仕事・子育て両立支援事業に必要な経費			担当部局庁	子ども・子育て本部			作成責任者		
事業開始年度	平成28年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	子ども・子育て支援担当 児童手当管理室			西川 隆久 樋口 俊宏		
会計区分	年金特別会計子ども・子育て支援勘定									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	子ども・子育て支援法(平成24年8月22日法律第65号) 第59条の2第1項			関係する計画、 通知等	平成28年度企業主導型保育事業費の国庫補助について(平成28年7月1日府子本第442号 内閣総理大臣通知) 平成28年度企業主導型ベビーシッター利用者支援事業費の国庫補助について(平成28年5月27日府子本第330号 内閣総理大臣通知)					
主要政策・施策	子ども・若者育成支援、少子化社会対策、男女共同参画			主要経費	社会保障					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	子ども・子育て支援法に「仕事・子育て両立支援事業」を位置づけ、企業主導型の多様な就労形態に対応した保育サービス等に対し、事業主拠出金を活用して助成・援助を行い、最大5万人の保育の受け皿の整備など労働者の仕事と子育ての両立に資する子ども・子育て支援の提供体制の充実を図る。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	子ども・子育て支援法に基づき、事業所内保育施設のうち、一定の基準を満たすものに対し、その運営に係る費用及び施設の設置に係る費用について、認可施設の水準の補助を行う。また、企業の労働者が就労のためベビーシッター派遣サービスを利用した場合等に、その利用料の一部を助成する。 【企業主導型保育事業】 実施主体:公募団体、補助率:10/10 【企業主導型ベビーシッター利用者支援事業】 実施主体:公募団体、補助率:10/10									
実施方法	補助									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	-	-	80,033	131,328	133,155			
		補正予算	-	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-				
		予備費等	-	-	-	-				
		計	0	0	80,033	131,328	133,155			
	執行額		-	-	79,645					
	執行率(%)		-	-	100%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		#DIV/0!	#DIV/0!	100%					
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由						
	仕事・子育て両立支援事業費補助金	131,328	133,155	企業主導型保育事業における運営費の満年度化等に伴う増額。						
	計	131,328	133,155							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標			単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 29年度	目標最終年度 -年度
	平成29年度までに48%	1.2歳児への保育サービス提供割合	成果実績	%	-	-	41.1	-	-	
			目標値	%	-	-	-	48	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	待機児童解消加速化プラン									
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載									チェック	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
	待機児童解消加速化プランに基づく受入増加数	活動実績		人	-	-	20,284	-
当初見込み			人	-	-	40,000	50,000	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
	ベビーシッター派遣事業割引券発行枚数 (28年度活動実績は精査中)	活動実績		枚	-	-	-	-
当初見込み			枚	-	-	130,000	130,000	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	
	待機児童解消加速化プランに基づく受入増加数 X(補助金執行額(千円))/ Y:(受入増加数)	単位当たりコスト		千円	-	-	3,910	2,619
計算式		X/Y		-	-	79,304,813/20,284	130,946,871/50,000	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	
	ベビーシッター派遣事業 割引券1枚発行当たりコスト X(補助金執行額)/ Y:(割引券発行枚数) 28年度は精査中	単位当たりコスト		円	-	-	-	2,421
計算式		X/Y		-	-	-	314,685,000/130,000	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	20. 子ども・子育て支援の推進							
		施策	④地域における子ども・子育て支援対策の推進						
	測定指標		定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
-									

事業所管部局による点検・改善

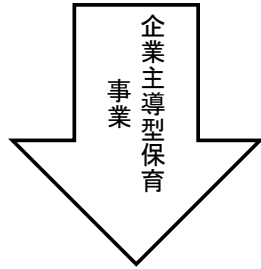
項目	評価	評価に関する説明
事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、待機児童解消に向けた保育の受け皿確保が求められる中、父母等の就労及び子育ての支援促進のため、事業所内保育を目的とする施設等の設置者に対する助成及び援助やベビーシッター派遣サービスの利用者支援を行うものであり、国民や社会のニーズを的確に反映している。
地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	子育て支援に地域差が生じないようにするため、国の補助事業としている。
政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	待機児童解消に向けた保育の受け皿確保のため、子ども・子育て支援法の改正を行ったところであり、本事業は優先度の高い事業である。
競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	補助する事業団体を選定する際には、公募の上、外部有識者を過半数以上とした評価検討委員会において事業を適切に遂行できるとものと評価・選定されたものであり、一者応募になったものについても、同様のプロセスを行っており妥当である。
一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
受益者との負担関係は妥当であるか。	○	交付要綱に基づき、補助することになっており、妥当である。
単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	交付要綱に基づき、本事業の実施に必要な経費のみを補助対象としているため妥当である。
資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	交付要綱に基づき、本事業の実施に必要な経費のみを補助対象としている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	「保育所等関連状況取りまとめ(平成28年4月1日)」(平成28年9月厚生労働省公表)によると、28年4月時点での1、2歳児の保育所等利用率は41.1%となっており、達成できる見込みである。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	平成29年度末までに5万人分の保育の受け皿を確保する目標に向け、概ね順調に推移している。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	企業主導型保育事業の実施設を整備することで、保育の受け皿が着実に増加している。			
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	所管府省名	事業番号	事業名			
点検・改善結果	点検結果	本事業は、国民や社会のニーズを的確に反映している等、各点検項目による評価は、概ね妥当と考えられる。				
	改善の方向性	今後も児童の健全育成を図るために、引き続き適正な執行に努めてまいりたい。				
外部有識者の所見						
<ul style="list-style-type: none"> ・29年度当初予算額が大幅な増額となっているが、「主な増減理由」において増額の理由を説明すべきではないか。 ・アウトカムが「1、2歳児への保育サービスの提供割合」となっているが、事業番号0112と同一である。関連事業の説明が必要ではないか。 ・補助率10/10について、永遠にこのままというわけにもいかない。事業のスタートアップとしてはこれでよいとしても、将来的に体制整備ができた段階において補助率を見直していくべき。そのためにも、「終期予定なし」とあるが、中間的な見直し期間を設定し、事業の適切な見直しを図るようすべきである。 						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	引き続き、効果的・効率的な事業の実施に努めることとし、効率的に執行した実績を概算要求に反映させること。また、外部有識者の所見を踏まえ、必要な点検を行うこと。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	企業主導型の多様な就労形態に対応した保育サービス等に対し、事業主拠出金を活用して助成・援助を行うことで、労働者の仕事と子育ての両立に資する子ども・子育て支援の提供体制の充実が図られるものと考えており、平成29年度中に7万人分程度の整備量の拡大を目指し、安定した事業実施に取り組んでまいりたい。					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	
平成25年度	-	平成26年度	-	平成27年度	-	
平成28年度	新28-0004					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

内閣府 79,645百万円

交付申請書の内容審査、交付決定、補助事業者の指導監査等



【補助金等交付】

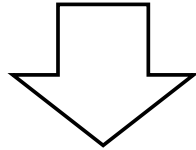
A 公募団体(1団体)
79,305百万円

企業主導型保育事業の実施

【補助金等交付】

B 公募団体(1団体)
340百万円

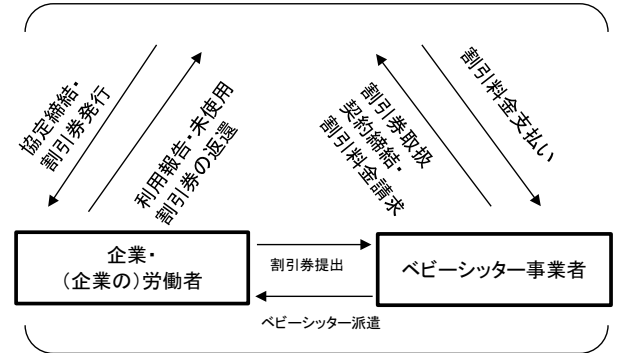
ベビーシッター派遣事業の実施
ベビーシッター研修事業の実施



【助成】

事業所内保育事業者

(参考)ベビーシッター派遣事業



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.公益財団法人 児童育成協会			B.公益財団法人 全国保育サービス協会		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
補助金	企業主導型保育事業	79,305	補助金	企業主導型ベビーシッター利用者支援事業	340
計		79,305	計		340

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1 公益財団法人 児童育成協会	4011005000220	企業主導型保育事業	79,305	補助金等交付	-	-	

B.

支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1 公益財団法人 全国保育サービス協会	7011105005331	企業主導型ベビーシッター利用者支援事業	340	補助金等交付	-	-	

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載

チェック